



Title	本堂記事
Author(s)	
Citation	懷徳. 1929, 7, p. 106-107
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88802
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

德碑」同あり、

同 十三年^{甲子}先生年六十歲

一月十日、御講書控を命ぜらる、

五月十一日疾に遭ふ、七月廿九日肺炎、神經衰弱及び尿毒症を併發し危篤に陥る、同月三十日、特旨を以て從四位に陞り勳四等に叙し、瑞寶章を賜はる、是日歿す、越えて三日火化、尋で八月十日遺骨を懷德堂に祭り、後大阪阿倍野瑩域に葬る、

本 堂 記 事

記念祭典 昭和三年十月六日記念祭典執行、文學博士内藤虎次郎先生の「章學誠の史學」と題する講演あり。

教授就任 豫て本堂教授に大阪高等學校教授文學士財津愛象先生を迎ふべく交渉中のところ、昭和四年三月八日正式に就任の承諾を得たり。

財津教授披露宴 四月七日堂友會員並に聽講生を請待し、財津教授披露宴を北濱風月堂に催す。

水曜講義復活 松山教授、稻束講師逝去により水曜の講義を中止したるが、財津教授就任と同時に大阪高等學校教授文學博士秋月胤繼先生を講師に聘し四月十七日の水曜より左の講義を開始す。

大學(秋月博士) 王夢曾中國文學史(財津教授)侍從御差遣 聖上陛下大阪行幸に際し、六月四日午後二時四十分長くも甘露寺侍從を本堂に御差遣相成り、親しく本堂の事業につき聽取せられたり。是の日小倉理事長、今井、木間瀬兩理事、野々村評議員、岡野幹事、財津教授、吉田助教、林講師、堂友會員、聽講生等御出迎へ申上げ、小倉理事長先導休憩室(南小講堂)に御案内、この時侍從より小倉理事長に對し聖旨の傳達あり、小倉理事長謹んで御禮言上の後財津教授より本堂沿革及び事業の概要を御説明申上ぐそれより今井理事の先導にて大講堂に御案内陳列の山階宮晃親王殿下御下賜小刀、白鹿洞掲示、懷德堂內事記、同外事記、同建立記、草茅危言 壁書二枚、竹山履軒畫像につき御説明申上げ記念撮影の後三時十分

退出せられたり。

財津教授披露宴 六月二十五日京大教授を都ホテ
ルに、同二十八日日本堂役員、職員、各官衙長官を大阪
俱樂部に請待し、各々財津教授就任紹介の宴を催す。

佐々木文學士 九月一日、大阪高等学校教授文學
士佐々木恒清先生を定日講義講師に囑託す、

第三期の講義講演 昭和四年第三期の講義講演中
新に開講するもの左の如し

定日講義 月曜 子思子(吉田助教授)

木曜 神皇正統記(佐々木講師)

文科講義 金曜 文選抄(財津教授)

定期(陽明學講話^(自九月至十月)文學博士 高瀬武次郎先生
講演)經濟と道德(同) 法學博士 田島錦治先生
通俗 農業經濟(同)農學博士 橋本傳左衛門先生
講演

本 會 記 事

幹 事 山 本 檜 信 記

昭和四年四月七日、總會 曩に深切なる理解を有せ
らるゝ理事長小倉正恒先生を迎へ、いま又最適任の
財津愛象先生を教授として仰ぐこととなり長き嚴寒
の後に一陽來復の春を迎ふるやうなよろこびに欣び
あひつゝ、午後三時會員の過半數が懷德堂に集合し
大講堂で總會を開催した、劈頭理事長の新教授披露
あり、小沼幹事座長として一同に詢り、財津先生を
本會々長として推戴、先生の御承諾をうけて、その
旨報告した、太田酒井兩幹事會計庶務の報告をなし
幹事改選は決定を會長にお願ひすることにしました
會員小松君は聴講の禮節に就て提議し、小沼幹事の
これに賛意を表するの言ありて、總會を閉ぢ茶話會
にうつる、講義に對する質問に就て、會員今西君の
意見開陳あり、途中一時中止して記念寫眞撮影、小